院外処方箋に記載されている検査値一覧表（彦根市立病院 基準値：2026年11月1日現在）

略号	検査項目名	基準値	単位	項目の説明
WBC	白血球数	3.3～8.6	x10^3/μL	白血球の総数で、血液疾患や炎症性疾患、薬剤の影響により異常値を示します。
Neut	好中球	38.3～74.7	% （白血球百分率）	細菌･ウイルス感染症、アレルギー反応、各種血液疾患の鑑別や抗がん剤などの薬剤使用時に用いられます。
Hb	血色素量	男性：13.7～16.8 女性：11.6～14.8	g/dL	酸素の運搬を担う赤血球中の色素タンパク質であるヘモグロビンの量です。 多血症や貧血の診断などに用いられます。
PLT	血小板数	158～348	x10^3/μL	出血を止める働きを担う血球の数です。薬剤の影響により低値を示す場合があります。
Alb	アルブミン	4.1～5.1	g/dL	血液中に最も多く含まれる蛋白で、肝臓で合成され、全身の栄養状態の指標となります。肝臓障害、栄養不足、ネフローゼ症候群などで減少します。
PT-INR	プロトロンビン時間（標準比）	0.8～1.2		血液の凝固能の指標になります。
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	U/L	肝臓や心筋などの組織が障害されると血中に増加する酵素です。肝機能や心機能の指標となります。薬物性肝障害などでも高値を示します。
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	男性：10～42 女性： 7～23	U/L	肝細胞が破壊されると血中に増加する酵素で、肝機能の指標となります。薬物性肝障害などでも高値を示します。
TB	総ビリルビン	0.4～1.5	mg/dL	胆汁色素の主成分で、肝疾患の診断や黄疸の鑑別に用いられます。
Cr	血清クレアチニン	男性：0.65～1.07 女性：0.46～0.79	mg/dL	腎機能の指標です。高値であるほど腎機能が低下していることを示します。 腎排泄型薬剤では、腎機能に応じて減量や投与間隔の延長が必要となる場合があります。＊
eGFR	推算糸球体濾過値	―	mL/分 /1.73㎡	血清クレアチニン値と年齢と性別から算出される腎機能の指標です。低値であるほど腎機能が低下していることを示します。日本人健常成人の平均体表面積（1.73㎡）あたりの値で表示されます。
CK	クレアチンキナーゼ	男性：59～248 女性：41～153	U/L	筋肉に存在する酵素で、心筋梗塞や筋肉の障害で上昇します。
CRP	C－反応性蛋白	0.00～0.14	mg/dL	炎症や組織の破壊が起こると血清中に増加するタンパク質で、炎症性疾患や組織破壊の有無や程度の指標となります。
Na	ナトリウム	138～145	mEq/L	血液中の電解質の濃度であり、体の水分の保持や浸透圧を調整しています。脱水症・腎機能障害で異常となります。
K	カリウム	3.6～4.8	mmol/L	細胞内に多く含まれる陽イオンで、神経や筋肉の機能を正常に保つ働きをします。薬剤の影響により異常値を示す場合があります。
Ca	カルシウム	8.8～10.1	mg/dL	骨や歯の形成、筋肉・神経の興奮、血液凝固などに関与するミネラルです。主に内分泌疾患や骨代謝異常で変動します。心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。
HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.9～6.0(NGSP)	%	血糖コントロールの指標で、国際標準値（ＮＧＳＰ値）で表記しています。

＊　クレアチニンクリアランス（Ccr）推算式（Cockcroft－Gaultの式）
男性：Ccr＝（140－年齢）×体重／（72×sCr）　女性：Ccr＝0.85×（140－年齢）×体重／（72×sCr）